

令和7年度 2学年

シラバス

科目内容紹介



長野県蘇南高等学校

総合学科

2年 組 番 氏名

教科	教養	科目名	産業社会と人間		年次	2 年	単位数	1
履修区分	☒ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件					
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☐ 就職準備				☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	自身と生まれ育った地域を見つめ直し、高校でどのような学びによって進路実現すべきかを模索しながら主体的に学ぶ姿勢を養う。さらに、その先の人生も含め、キャリア・デザインし続けることの重要性を理解する。							
目指す資質・能力	知識・技能	自身や身の周りの現状を自分ごととしてとらえ、多角的に課題の発見・解決のヒントになる知識を吸収する姿勢						
	思考・判断・表現	自身の考えのみならず他者の考えを聞くなかで、多様な考え方があることを理解・尊重する柔軟な人間力						
	主体的に学習に取り組む態度	世界・日本・地域の人々の未来のしあわせを想像し、社会に積極的に関わろうとする態度と考えた通りに実現しないことがあっても挫けない自己回復力						
使用教科書	なし			使用副教材	なし			

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	1 ガイダンス	1	4 履修計画 ・科目選択相談会	2
	2 社会理解 ・未来の想像(これまでの振り返り) ・未来の想像(学びと地域社会の繋がり)	4	5 探究基礎 ・探究のレッスン① ・探究テーマの検討・深化 ・探究テーマの決定、探究計画の作成 ・テーマ発表会準備 ・テーマ発表会	16
	3 進路探究 ・職業観・学問意識を育む(事前学習) ・職業観・学問意識を育む (アカデミック・ワーキングインターンシップ) ・職業観・学問意識を育む(まとめ) ・職業観・学問意識を育む(報告会)	12		
	合 計			35

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	事前・事後学習におけるワークシートの提出
	思考・判断・表現	感想記入用紙の提出、展示・発表に向けた制作物への取り組み
	主体的に学習に取り組む態度	展示・発表に向けた制作物(ポスター、スライド等)への取り組み、ペアやグループ活動への取り組みの様子
学習にあたっての注意とアドバイス	・学びに対しては、「自分ごと」として取り組もう。 ・欠席をせず、ペアやグループでの活動に積極的に参加しよう。 ・ワークシートや感想記入用紙等の提出物は、期限を守って提出しよう。	

教科	国語	科目名	論理国語		年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	文理系列を選択している生徒全員				
対象者	☒ 四大文系 ・ ☒ 四大理系 ・		☒ 教養 ・ ☒ 就職準備	☒ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員				

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を身につける。論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
目指す資質・能力	知識・技能	文章を読んで、構成、展開、要旨、情景、心情などを的確にとらえ、その論理性を評価し、表現を味わうことを通して人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて知識を活用して思考する力を身につける。					
	主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者をリスペクトして協働する力を身につける。					
使用教科書	新編 論理国語(大修館書店)			使用副教材	・級別漢字の総仕上げ(中部日本教育分科会) ・LT現代文1(浜島書店) ・カラー版新国語便覧(第一学習社)		

	前 期		時間	後 期		時間
	知の登山、知の水路 「論理的な人」とはどういう人か		5 4	考える葦であり続ける 根拠をふまえて主張を書こう 構成を考えて書こう 反論を想定して書こう 文章を磨き上げよう 量の時代から質の時代へ		6 1 1 1 3 6
年間学習計画	ウサギの耳はなぜ長い 記号的メディアと物理的メディア		4 5			
	第1回考査			第3回考査		
	対話の精神 デジタル地図から見える世界 人工の自然－科学技術時代の今を生きるために		6 6 6	紙の本はなくなる 情報化と紙の本の行方 テーマを決め、問を立てよう 情報を収集しよう 情報を整理しよう レポートをまとめよう		5 5 1 1 1 3
	第2回考査			学年末考査		
				合 計		70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査(70%)・課題提出(30%)による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	毎時間、漢字小テストを実施するので、予習・復習をきちんと行う。 教科書の文章は授業でも朗読するが、自分で何度も読んで語彙を身につける。 わからない単語は辞書で調べ、語彙を増やす。 黒板の板書をきちんとノートに取り、復習する。特に文法事項に関してよく理解し、課題などで繰り返し練習して身に付けるようにする。	

教科	国語	科目名	文学国語	年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	文理系列選択者で、私立四年制大学文系を志望する者。			
対象者	☒ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☐ 就職準備			☒ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、言語文化に対する理解を深める。深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ、深める。						
目指す資質・能力	知識・技能	文章を読んで、構成、展開、要旨、情景、心情などを的確にとらえ、その論理性を評価し、表現を味わうことを通して人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて知識を活用して思考する力を身につける。					
	主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者をリスペクトして協働する力を身につける。					
使用教科書	高等学校 文学国語(第一学習社)			使用副教材	・級別漢字の総仕上げ(中部日本教育分科会) ・カラー版新国語便覧(第一学習社)		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	山月記 近代の詩	6 4	フェルメールの技を読む こころ	6 10
年間学習計画	檸檬 旅する本	6 4	第3回考查	
	第1回考查		葉桜と魔笛 バグダッドの靴磨き わたしが一番きれいだったとき	7 5 2
	富嶽百景 花のいざない 真珠の耳飾りの少女	6 6 6	死んだ男の残したものは 春－イラクの少女シャミラに	1 1
	第2回考查		学年末考查	
			合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考查の得点の合計、もしくは、定期考查の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考查(70%)・課題提出(30%)による。
	思考・判断・表現	定期考查・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	教科書の文章は授業でも朗読するが、自分で何度も読んで語彙を身につける。 わからない単語は辞書で調べ、語彙を増やす。 黒板の板書をきちんとノートに取り、復習する。特に文法事項に関してよく理解し、課題などで繰り返し練習して身に付けるようにする。	

教科	国語	科目名	古典探究(2年)	年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	四年制大学への進学を志望している者は、選択することが望ましい。			
対象者	☒ 四大文系 ・ ☒ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☒ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
目指す資質・能力	知識・技能	人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める力を身につける。					
	思考・判断・表現	古典を通して先人のものの見方、感じ方、考え方と関わるなかで、論理的に考え、知識を活用して思考する力を身につける。					
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して未来の自分を創造する力を身につける。					
使用教科書	高等学校 精選古典探究(第一学習社)			使用副教材	・新修 古典文法 二訂版(京都書房) ・カラー版新国語便覧(第一学習社)		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	徒然草	10	平家物語	15
	伊勢物語	15	奥の細道	15
	方丈記	15		
	合 計		70	

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査(70%)・課題提出(30%)による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	先生の話を聞き、ノートをきちんと取る。 知っている言葉の語彙を増やす。 声に出して文章を読む。 予習・復習をする。	

教科	国語	科目名	現代文基礎		年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	経営ビジネス系列・ものづくり系列を選択している生徒全員				
対象者	☒ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・		☒ 教養 ・ ☒ 就職準備	☐ 文理 ・ ☒ 経ビ ・ ☒ もの ・ ☐ 全員				

学習目標	近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。						
目指す資質・能力	知識・技能	文章特有の表現を味わったり、語句の用いられ方について理解を深めたりすることを通して人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	文章に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間、社会、自然などについて、知識を活用して思考する力を身につける。					
	主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者をリスペクトして協働する力を身につける。					
使用教科書	なし			使用副教材	・LT現代文1(浜島書店) ・級別漢字の総仕上げ(中部日本教育分科会) ・カラー版新国語便覧(第一学習社)		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	「わたし的には」の壁 何のためのルール 無表情なキャラクター 便利なものは必要ない	10	こころ	15
	山月記	10	調律師の才能 学びからの逃走 世界の地平に立つスポーツ 抽象化して考える	20
	豆腐造り 植物がしたこと	15	表紙からのメッセージ 父娘ピクニック 「相手をしてくれる」メディア 大沢崩れ 子どもの哲学 「悲しみ」 秋の夜 言語における規範と創造	
	見えない心に想いをはせる 暈の文化 梅雨の終わり 直立せよ一行の詩 モネの美しい色彩の謎 スポーツの深い世界		合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査(70%)・課題提出(30%)による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	先生の話をしっかり聞き、ノートをきちんと取る。特に文法事項に関してよく理解し、課題などで繰り返し練習して身に付けるようにする。 わからない単語は辞書で調べるなど、語彙を増やす。 声に出して文章を読む。 小説や新聞等、身近な文章を活用することも、学力向上に有効。	

教科	地理歴史	科目名	日本史探究	年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必修修 ・ ☒ 選択		選択条件				
対象者	☒ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☒ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	我が国の歴史の諸事象について、様々な資料などと関連づけながら総合的に理解し、我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめられる力。					
	思考・判断・表現	我が国の歴史事象の意味や意義などを、現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察し、歴史にみられる課題を探究し、それらを他人に伝えられる力。					
	主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の諸事象について、課題の最適解を探究し、よりよい社会の実現を視野に未来の自分を創造しようとする力。					
使用教科書	高校日本史(山川出版社)			使用副教材	歴史資料館 日本史のライブラリー(とうほう)		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	第1章 日本文化のあけぼの 1. 日本文化の始まり 2. 農耕の開始 3. 歴史資料と原始・古代の展望		12	第4章 貴族政治の展開 1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 荘園の発達と武士団の成長		12
	第2章 古墳とヤマト政権 1. 古墳文化の展開 2. 飛鳥の朝廷	第1回考查	10	第5章 院政と武士の進出 1. 院政の始まり 2. 院政と平氏政権 3. 歴史資料と中世の展望	第3回考查	12
	第3章 律令国家の形成 1. 律令国家への道 2. 平城京の時代 3. 律令国家の文化 4. 律令国家の変容	第2回考查	12	第6章 武家政権の成立 1. 鎌倉幕府の成立と展開 2. モンゴル襲来と幕府の衰退 3. 鎌倉文化	学年末考查	12
			合 計		70	

履修要件	1. 上記の教材や必要に応じて指示された物を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が規定の授業時数の1/5以内であること。 3. 歴史総合を履修済であること。	
修得要件	1. 上記、履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考查を受験し、課題等の提出を求められた場合は期限内に済ませること。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考查・課題提出による。(50%程度)
	思考・判断・表現	定期考查・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。(30%程度)
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、ルーブリックおよびアセスメント(振り返りシート)による。(20%程度)
学習にあたっての注意とアドバイス	・毎時間の授業が基本になります。欠席をせず、毎時間の授業のなかで小さなことでもよいので新たな発見や理解を積み重ねてください。 ・教科書の内容を網羅することは難しいので、わからないことは自分で調べたり質問したりしてください。 ・共通テストなど、日本史探究を受験科目の1つとして使おうとする場合は、「歴史総合・日本史探究」の組み合わせ(共通テストの場合)になるので、歴史総合の範囲を含めて、個人個人での用語集や問題集の購入などを視野に入れ、自学自習もおこなっていくことが必要になってきます(冊子の紹介はする予定です)。	

教科	公民	科目名	公共	年次	2 年	単位数	2
履修区分	☒ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	現実の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方を養い、自ら問いをたてて探究する力をつける。					
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、学んだことが未来につながることを創造する力をつける。					
使用教科書	公共（実教出版）			使用副教材	ニュービジョン公共（浜島書店）		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	第1部 公共の扉 第1章 社会を作る私たち 第2章 人間としてよく生きる 第3章 他者とともに生きる 第4章 民主社会の倫理 第5章 民主国家における基本原理 第1回考查	20	2 現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会 第2章 日本経済の特質と国民生活 第3回考查 3 国際社会と人類の課題 第1章 国際政治の動向と課題 第2章 国際経済の動向と課題	15 15
	第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち 1 現代の民主政治と日本国憲法 第1章 日本国憲法の基本的性格 第2回考查 第2章 日本の政治機構と政治参加	15	第3部 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 学年末考查	5
			合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考查を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考查・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考查・課題提出やアセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みやアセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業を大切にすること。 ・教科書の内容や図・注釈を網羅することは難しいので、わからないことは自分で調べたり質問したりしてください。 ・世の中で起きていることに関心を持ち、自ら知りたいという積極性を大事にすること。 ・新聞やニュースを見るようにすること。	

教科	数学	科目名	数学Ⅱ	年次	2 年	単位数	4
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	1年次に「数学Ⅰ」を履修していること。			
対象者	☒ 四大文系 ・ ☒ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☐ 就職準備			☒ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。また、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的な活動を通して事象を数学的に考察し表現する能力を培うとともに、それらを活用する態度を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	初等解析学の基本的な概念や内容を理解することで、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。					
使用教科書	数学Ⅱ Standard(東京書籍)			使用副教材	WIDE 数学Ⅱ+B(東京書籍)		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	第1章 式と証明 多項式・分数式の計算 2次方程式 高次方程式 式と証明	第1回考查	40	第3章 三角関数 三角関数 加法定理	第3回考查	30
				第4章 指数関数と対数関数 指数関数 対数関数		15
	第2章 図形と方程式 点と直線 円 軌跡と領域	第2回考查	30	第5章 微分と積分 微分の考え 積分の考え	学年末考查	25
				合 計		140

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	以下の観点を総合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考查および課題（知識・技能、思考・判断・表現） 2 授業への出席や取り組む姿勢（主体的に学習に取り組む態度）		
評価の方法	知識・技能	定期考查・課題提出による。	
	思考・判断・表現	定期考查・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。	
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる	
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・予習よりも復習のほうが大切なため、その日に学習した練習問題を家で毎日1問以上解こう。 ・以下の学習をすると力がついていきます。 ①「公式を覚える」ために”例”や”例題”を解く ②「公式の使い方」を増やすために”例題”を解く ③「入試に向けた基本的な解法を覚える」ために”応用例題”や”章末問題”を解く		

教科	数学	科目名	数学B		年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	文理系列選択者で、1年次に「数学A」を履修していることが望ましい。				
対象者	☒ 四大文系 ・ ☒ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備		☒ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員					

学習目標	確率分布と統計的な推測、数列について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	統計学や代数学の基本的な概念や内容を理解することで、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。					
使用教科書	数学B Standard(東京書籍)			使用副教材	WIDE 数学Ⅱ+B(東京書籍)		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	第1章 数列 数列 等差数列 等差数列の和 等比数列 等比数列の和 数列の和と記号 Σ いろいろな数列 漸化式 数学的帰納法	35	第2章 統計的な推測 母集団と標本 確率分布 確率変数の平均と分散の性質 確率変数の和と積 二項分布 正規分布 母平均の推定 仮説検定	35
	第1回考查 第2回考查		第3回考查 学年末考查	
合 計				70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	以下の観点を経合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考查および課題（知識・技能、思考・判断・表現） 2 授業への出席や取り組む姿勢（主体的に学習に取り組む態度）		
評価の方法	知識・技能	定期考查・課題提出による。	
	思考・判断・表現	定期考查・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。	
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。	
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・予習よりも復習のほうが大切なため、その日に学習した練習問題を家で毎日1問以上解こう。 ・以下の学習ををすると力がついていきます。 ①「公式を覚える」のために”例”や”例題”を解く ②「公式の使い方」を増やすために”例題”を解く ③「入試に向けた基本的な解法を覚える」ために”応用例題”や”章末問題”を解く		

教科	数学	科目名	実用数学	年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	「数学Ⅰ」および「数学A」を履修していることが望ましい。			
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☒ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	単に数学の知識・技能を身につけるだけでなく、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的な活動を通して、種々の定義や公式の意味を理解し、身のまわりの事象に活用することで、数学の有用性に気づき、主体的に学習に取り組む態度を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	工業科目に必要な数学の基本的な概念や内容を理解することで、基本的な計算技能を身につける。					
	思考・判断・表現	身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。					
使用教科書	数学Ⅱ Essence（東京書籍）			使用副教材			

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	指数法則と普遍単位 指数法則と計算 指数と単位 有効数字 方程式とその変形 方程式の変形 方程式の解法 三角関数 弧度法と度数法 三角比の拡張 三角関数のグラフ 逆三角関数 測量	35	n進数 10進数→n進数 n進数→10進数 ベクトルと極座標 スカラーとベクトル ベクトルの演算 極座標 複素数と複素数平面 複素数の定義 複素数の演算 複素数平面	35
	第1回考査		第3回考査	
	第2回考査		学年末考査	
合 計				70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	以下の観点を総合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考査および課題（知識・技能、思考・判断・表現） 2 授業への出席や取り組む姿勢（主体的に学習に取り組む態度）	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・予習よりも復習のほうが大切なため、その日に学習した練習問題を家で毎日1問以上解こう。 ・以下の学習をすると力がついていきます。 ①「公式を覚える」のために例や例題を解く ②「公式の使い方」を増やすために例題を解く	

教科	理科	科目名	科学と人間生活		年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	【文理系列】選択 【びも】全員				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☐ 就職準備		☒ 文理 ・ ☒ 経ビ ・ ☒ もの ・ ☐ 全員					

学習目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。					
目指す資質・能力	知識・技能	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。				
	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究し、知識を活用して思考する力。				
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養うとともに、学んだことが未来につながることを想像することで、科学に対する興味関心が高まっている。				
使用教科書	第一学習社『高等学校 科学と人間生活』			使用副教材		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	序章 科学技術の発展 情報伝達技術の発展 エネルギー資源の活用と交通手段の発展 医療技術の発展		5	第三章 生命の科学 第1節 熱の性質とその利用 音頭と熱運動 エネルギーの移り変わり 第2節 光の性質とその応用 光の発生と速さ 電磁波の種類とその利用	第3回考查	15
	第Ⅰ章 物質の科学 第1節 材料とその性質 プラスチックと人間生活 金属と人間生活	第1回考查	15	第四章 地球や宇宙の科学 第1節 自然景観と自然災害 日本列島のなりたち 地震活動と地表の変化 第2節 太陽と地球 太陽と太陽系 天体の動き		15
	第Ⅱ章 生命の科学 第1節 ヒトの生命現象 タンパク質のはたらきと構造 血糖濃度の調節 ヒトの視覚 第2節 微生物とその利用 身近な微生物 微生物の利用	第2回考查	15	第Ⅴ章 これからの科学と人間生活 課題の設定と研究の進め方 研究の課題例	学年末考查	5
			合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施する定期考査を受験し、課題等の提出をすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題(実験レポート)提出等による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題(実験レポート)提出およびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
学習にあたっての注意とアドバイス	授業中に基本的な事項を理解し、覚えることが大切です。そのためにも、授業に集中して取り組み、ノートをきちんととって下さい。また、定期考査には十分な準備をして臨むようにし、頭の中を整理する機会にしましょう。特に授業中に配布されたプリントは理解できるまで、何度も思考を重ねると良いでしょう。	

教科	理科	科目名	物理基礎(文理・も)		年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	【文理系列】選択				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☒ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備		☒ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☒ もの ・ ☐ 全員					

学習目標	自然の事物・現象に関することを題材にして、基本的な概念、原理、法則を理解する。現代科学の基礎をなす物理の基本法則を学び、理解することによって、現代社会をより広い視野で捉え、的確な判断を下すことができるようになる。なお、大学入試にも対応できるよう基礎学力の養成を目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能(力)を身につけるようにする。					
	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、自ら問いをたてて科学的に探究する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組むことで、物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。					
使用教科書	第一学習社『高等学校 物理基礎』			使用副教材	第一学習社『セミナー物理基礎』		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	第1章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動 速度 加速度 落下運動 第2節 力と運動の法則 さまざまな力 力の合成・分解とつりあい 運動の3法則 運動方程式の利用 抵抗力を受ける運動 第2章 熱 第1節 熱とエネルギー 熱と温度 エネルギーの変換と保存		25	第3章 波動 第1節 波の性質 波の表し方と波の要素 波の重ね合わせ 第2節 音波 音波の性質 物体の振動		20
		第1回考查			第3回考查	
			10	第4章 電気 第1節 静電気と電流 静電気 電流と抵抗 電気エネルギー 第2節 電流と磁場 磁場・モーターと発電機 第3節 エネルギーとその利用 太陽エネルギーと化石燃料 原子力エネルギー		15
		第2回考查			学年末考查	
			合 計		70	

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施する定期考查を受験し、課題等の提出をすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考查・課題(実験レポート)提出等による。
	思考・判断・表現	定期考查・課題(実験レポート)提出およびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
学習にあたっての注意とアドバイス	授業中に基本的な事項を理解し、覚えることが大切です。そのためにも、授業に集中して取り組み、ノートをきちんととって下さい。また、定期考查には十分な準備をして臨むようにし、頭の中を整理する機会にしましょう。特に授業中に配布されたプリントは理解できるまで、何度も思考を重ねると良いでしょう。	

教科	理科	科目名	化学(2年)	年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	2・3年次における「化学」は継続履修である。2年次に「化学」を履修した生徒は、3年次も「化学」を選択すること。			
対象者	☐ 四大文系 ・ ☒ 四大理系		☐ 教養 ・ ☐ 就職準備	☒ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	自然の事物・現象に関することを題材にして、基本的な概念、原理、法則を理解すること。自然を構成する物質の成り立ちや性質、変化などを学ぶことにより、現代社会をより広い視野で捉え、的確な判断を下すことができるようになること。なお、大学入試にも対応できるよう基礎学力の養成を目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能(力)を身につけるようにする。					
	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、知識を活用することで科学的に探究する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組むことで、化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。					
使用教科書	第一学習社『高等学校 化学』			使用副教材	第一学習社『セミナー化学基礎・化学』		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	第1章 物質の状態			第2節 電池・電気分解		10
	第1節 物質の状態変化		5	第3節 化学反応の速さ		10
	物質の三態とその変化			反応速度		
	気体分子の熱運動と圧力			触媒	第3回考査	
	飽和用気圧と蒸気圧曲線	第1回考査		第4節 化学平衡		5
	第2節 気体の性質		10	可逆反応と化学平衡		
	気体の変化			平衡定数		
	気体の状態方程式			第5節 電離平衡		10
	理想気体と実在気体			電離平衡		
	第3節 固体の構造		5	弱酸・弱塩基の電離平衡		
	第4節 溶液の性質		5	塩の性質と反応		
	希薄溶液の性質			緩衝液と緩衝作用		
	コロイド	第2回考査		溶解度積	学年末考査	
	第2章 物質の変化と平衡					
	第1節 化学反応と熱・光		10			
	化学反応とエンタルピー変化					
	ヘスの法則					
	結合エネルギー					
	化学反応と光					
	エントロピー					
				合 計		70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施する定期考査を受験し、課題等の提出をすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題(実験レポート)提出等による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題(実験レポート)提出およびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
学習にあたっての注意とアドバイス	授業中に基本的な事項を理解し、覚えることが大切です。そのためにも、授業に集中して取り組み、ノートをきちんととって下さい。また、定期考査には十分な準備をして臨むようにし、頭の中を整理する機会にしましょう。特に授業中に配布されたプリントは理解できるまで、何度も思考を重ねると良いでしょう。	

教科	理科	科目名	生物基礎		年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	【文理系列】選択				
対象者	☒ 四大文系 ・ ☒ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備		☒ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員					

学習目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。なお、大学入試にも対応できるよう基礎学力の養成を目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。					
	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、唯一解がなくても科学的に最適解を判断する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組むことで、生物や生物現象に主体的に関わり、試行錯誤を続けながら科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し自然環境の保全に寄与する態度を養う。					
使用教科書	第一学習社『高等学校 生物基礎』			使用副教材	第一学習社『セミナー生物基礎』		

	前 期		時間	後 期		時間
	年 間 学 習 計 画					
	第1編 生物の特徴		11	第2節 免疫		10
	第1章 生物の特徴			生体防御		
	第1節 生物の共通性			自然免疫		
	生物の多様性と共通性			獲得免疫		
	生物の共通性の由来			自然免疫と獲得免疫の特徴	第3回考査	
	第2節 生物とエネルギー			第3編 生物の多様性と生態系		12
	代謝とATP	第1回考査		第4章 植生と遷移		
	代謝と酵素			第1節 植生と遷移		
	第2章 遺伝子とその働き		12	食性と環境の関わり		
	第1節 遺伝子の本体の構造			第2節 バイオーム		
	遺伝情報とDNA			遷移とバイオーム		
	第2節 遺伝情報とタンパク質			第5章 生態系とその保全		14
	遺伝情報とタンパク質			第1節 生態系と生物の多様性		
	転写と翻訳			生態系の成り立ち		
	遺伝子とゲノム	第2回考査		生態系における生物どうしの関わり		
	第2編 ヒトのからだの調節			第2節 生態系のバランスと保全		
	第3章 ヒトのからだの調節		11	生態系の変動と安定性		
	第1節 情報の伝達と体内環境の維持			人間活動による生態系への影響	学年末考査	
	恒常性と神経系					
	体内環境を調節するしくみ			合 計		70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施する定期考査を受験し、課題等の提出をすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題(実験レポート)提出等による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題(実験レポート)提出およびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
学習にあたっての注意とアドバイス	授業中に基本的な事項を理解し、覚えることが大切です。そのためにも、授業に集中して取り組み、ノートをきちんととって下さい。また、定期考査には十分な準備をして臨むようにし、頭の中を整理する機会にしましょう。特に授業中に配布されたプリントは理解できるまで、何度も思考を重ねると良いでしょう。	

教科	保健体育	科目名	体育	年次	2 年	単位数	2
履修区分	☒ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	運動の特性に触れる楽しさや喜びを味わえるように、自ら考えたり工夫して運動を実戦するとともに、健康の保持増進のための実践力を身につける。						
目指す資質・能力	知識・技能	・競技に求められる運動特性などを理解し、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける					
	思考・判断・表現	・生涯にわたって運動を豊かに継続するため、知識を活用して思考する力 ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて自ら問いをたてて探求する力					
	主体的に学習に取り組む態度	・ルールやマナーを守り、学びに真摯に取り組む力 ・一人一人の違いを認め、他者をリスペクトして協働する力					
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)			使用副教材	現代高等保健体育ノート(大修館書店)		

	前 期	時間	後 期	時間
	オリエンテーション・体ならし 体力づくり(ランニング) クラスマッチに向けて 体づくり運動 新体力テストを活用して運動計画を立てる 体育理論 運動・スポーツの学び方 球技① 男子:ソフトボール 女子:ソフトボール 体育理論 運動・スポーツの学び方 球技② 男子:バレーボール 女子:バレーボール	7 7 1 10 2 10	球技③ クラスマッチに向けて 体育理論 運動・スポーツの学び方 球技④ 男子:バスケットボール 女子:バスケットボール 選択 男女混合選択 体育理論 運動・スポーツの学び方 合 計	7 2 11 12 1 70

履修要件	1 授業のルールを守り、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	・スキルテスト、ゲーム中の動き方 ・筆記テスト(体育理論)	
	思考・判断・表現	・「振り返りシート」への記入内容 ・自己や他者・周囲への気付き	
	主体的に学習に取り組む態度	・欠席、遅刻、忘れ物の回数 ・準備・片付け、他者との協力の様子 ・運動量	
学習にあたっての注意とアドバイス	・実技科目であるため、出席し、積極的に活動することが重要である。運動技能のみならず、服装や集団行動、仲間とのコミュニケーションなど総合的に評価する。		

教科	保健体育	科目名	保健	年次	2 年	単位数	1
履修区分	☒ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	生涯を通じて明るく豊かで活力のある生活を営むために、個人及び社会における健康・安全について理解を深め、自他や社会における健康課題を発見し、合理的に解決する方法を実践したり他者に伝える能力を身につける。						
目指す資質・能力	知識・技能	「生涯を通じる健康」、「健康を支える環境づくり」にかかわる用語等を理解し、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける					
	思考・判断・表現	「生涯を通じる健康」、「健康を支える環境づくり」にかかわる事象から課題を発見し、自ら問いをたてて探求する力					
	主体的に学習に取り組む態度	学習内容を実生活や社会の動きに重ね合わせ、未来の自分を創造する力					
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)			使用副教材	現代高等保健体育ノート(大修館書店)		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	【3単元】生涯を通じる健康 ライフステージと健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択 妊娠・出産と健康 避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康 中高年期と健康 働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活 第2回考查	18	【4単元】健康を支える環境づくり 大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康 環境と健康にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備 食品の安全性 食品衛生にかかわる活動 保健サービスとその活用 医療サービスとその活用 医薬品の制度とその活用 さまざまな保健活動や社会的対策 健康に関する環境づくりと社会参加 学年末考查	17
	合 計			35

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考查を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	・定期考查・提出課題	
	思考・判断・表現	・「保健ノート」の取り組み内容 ・定期考查・各種課題の取り組み内容	
	主体的に学習に取り組む態度	・欠席、遅刻、早退、忘れ物の回数 ・授業への取り組みの様子	
学習にあたっての注意とアドバイス	・授業ノートの提出を定期的に行っているため、板書の書き取りや穴埋め問題などをしっかりと行い、積極的に授業に参加すること。 ・保健は1単位の授業で年間授業数が少ないため、欠課数が基準を超えないように十分に気を付けること。		

教科	音楽	科目名	音楽Ⅱ		年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	音楽Ⅰを修得していること。				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☐ 就職準備		☒ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員					

学習目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。					
	思考・判断・表現	個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。					
	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。					
使用教科書	MOUSA2(教育芸術社)			使用副教材	なし		

	前 期	時間	後 期	時間
年間学習計画	【歌唱】 早春賦 ハナミズキ 椰子の実 糸	12	【歌唱】 浜辺の歌 フニクリ・フニクラ(イタリア歌曲) 合唱曲	10
	【器楽】 三線「涙そうそう」	8	【器楽】 リコーダー「愛のテーマ」	8
	【鑑賞】 バレエ「白鳥の湖」 西洋音楽	12	【鑑賞】 世界の諸民族の音楽 能 狂言	12
			【音楽史】 バロック～古典派(鑑賞に合わせて)	8
			合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての筆記試験・実技試験を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	授業への取り組み(学習プリントを含む)及び、筆記試験・実技試験による。	
	思考・判断・表現	授業への取り組み(学習プリントを含む)及び、筆記試験・実技試験による。	
	主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み及び、振り返りシートによる。	
学習にあたっての注意とアドバイス	・定期考査は実施しないが、授業内で単元ごとに試験を実施する。 ・歌唱や器楽等の実技は練習を積み重ねることが大切である。欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組むこと。 ・普段から自国や諸外国の文化や歴史について関心を持ち、自身の感性を磨くこと。		

教科	音楽	科目名	音楽表現基礎		年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	選択条件はないが、専門的な内容を扱うこともあるので音楽を必要とする進学者は履修することが望ましい。				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☐ 就職準備				☒ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	音楽系大学・短大・専門学校や保育・福祉など、音楽を必要とする進学に対応出来る技能と知識を身につける。						
目指す資質・能力	知識・技能	音感や読譜力など、すべての分野の音楽に共通する人間と世界についての豊かな知識と技能。					
	思考・判断・表現	音楽理論を理解したうえで楽譜を正しく読み、それを歌唱や器楽で表現し、知識を生かして試行する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	分からないところや苦手なところをそのままにせず、自ら質問したり、上手いかわない原因を追求する学びを自己調整する力。					
使用教科書	なし			使用副教材	なし		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	オリエンテーション	1	【音楽理論】 音階 調性 コードネーム	合計 19
	【音楽理論】 楽譜の書き方 譜表、拍子、音符と休符 音名 音程	合計 15	【ソルフェージュ】 コールユーブンゲン リズム視唱 新曲視唱	
	【ソルフェージュ】 コールユーブンゲン リズム視唱 新曲視唱		【実技演習】 ハンドベル	15
	【実技演習】 キーボード 童謡弾き歌い	20	合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての筆記試験・実技試験を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	授業への取り組み(学習プリントを含む)及び、筆記試験・実技試験による。
	思考・判断・表現	授業への取り組み(学習プリントを含む)及び、筆記試験・実技試験による。
	主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み及び、振り返りシートによる。
学習にあたっての注意とアドバイス	・定期考査は実施しないが、授業内で単元ごとに試験を実施する。 ・分からないことをそのままにせず、質問したり自ら調べて理解に努めること。 ・実技は練習を積み重ねることが大切である。欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組むこと。 ・音楽系及び保育系進学希望者は、ピアノの個人レッスンの受講を推奨する。保育士や幼稚園教諭の採用試験におけるピアノの実技試験では一定程度のレベルが求められるため、なるべく早いうちから対策をすることが望ましい。相談にも乗ります。	

教科	芸術	科目名	美術Ⅱ		年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	美術Ⅰを修得した者に限る				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☐ 就職準備				☒ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。					
目指す資質・能力	知識・技能	美術の歴史や文化、時代・民族・風土・宗教の相違や共通性を考察し、対象を観察して表現する活動を通して人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。				
	思考・判断・表現	表現の目的や意図に応じて、知識を活用して思考する力。自然、自己、社会などを深く見つめて、自ら問いをたてて探究する力。				
	主体的に学習に取り組む態度	主題に合った表現方法を工夫して、創造的に表現できるよう試行錯誤を続ける力。				
使用教科書	高校生の美術2(日本文教出版)			使用副教材	なし	

	前 期	時間	後 期	時間
	オリエンテーション	1	グループ制作(アニメーション) これまでの知識と技術を使って動かす	20
年間学習計画	春をみつけよう 写真基礎	3	版画 トートバッグのデザイン・プリントを行う リポートのデザイン	15
	美術とSDGs 読まれなくなった本をオブジェに 着なくなった服を新たな布に	8		
	立体 卵をつくる	5		
	絵画演習 鑑賞 Character in the ART	18		
			合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 完成した課題の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
	思考・判断・表現	授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・自分自身で考え、常により良い表現を求めて試行錯誤しよう。 ・上手いかわいさ、考えること・行動することを続けよう。 ・自分以外の人の表現や助言にも心を傾けよう。 ・作品は必ず完成させたものを提出すること。作品未提出者は、補習を行う。 ・制作物は展示を行います。他の人に見てもらいたいと思えるよう、こだわりをもった取り組みをしよう。	

教科	芸術	科目名	造形	年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	美術系の進路を希望している者は履修することがのぞましい。			
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	美術系大学・短大や各種デザイン系の美術専門学校への進学者がその分野に必要な基本的知識・能力を身につける。地域の伝統技術や生活と美術のつながりを理解する。					
目指す資質・能力	知識・技能	地域の伝統工芸や生活の中の造形的な要素や工夫を知り、正しく形を捉えて表現する活動を通して人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。				
	思考・判断・表現	生活の中の造形的な要素や工夫をみつけ、知識を活用して思考する力を養う。				
	主体的に学習に取り組む態度	用途に合った表現方法を工夫して、創造的に表現できるよう試行錯誤を続ける力を養う。				
使用教科書	なし			使用副教材	なし	

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	オリエンテーション	1	木工芸	35
	[選択] ・素描 (手をモチーフに木炭で構成デッサンする) ・模刻 (モチーフそっくりの立体を制作する) ・プリンティング (トートバッグのデザイン・プリントを行う)	20	南木曾ろくろ細工 木のスプーンを作る	
	[選択] ・平面構成 (矩形、直線、曲線で平面構成する) ・島ぞうりアート (ビーチサンダルをカービングで装飾する)	14		
	合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 完成した課題の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
	思考・判断・表現	授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・自分自身で考え、常により良い表現を求めて試行錯誤しよう。 ・上手いかわいさの時こそ、考えること・行動することを続けよう。 ・自分以外の人の表現や助言にも心を傾けよう。 ・作品は必ず完成させたものを提出すること。作品未提出者は、補習を行う。 ・制作物は展示を行います。他の人に見てもらいたいと思えるよう、こだわりをもった取り組みをしよう。	

教科	外国語	科目名	英語コミュニケーションⅡ		年次	2 年	単位数	4
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	1年次に英語コミュニケーションⅠを履修していること				
対象者	☒ 四大文系 ・ ☒ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備				☒ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方、考え方を働かせ、5領域を相互に結び付けた統合的な言語活動を通して、日常的・社会的な話題について、目的や場面、状況に応じて適切なコミュニケーションが図れる技能を育成する。						
目指す資質・能力	知識・技能	外国語で実際に聞くこと、読むこと、書くこと、話すことの経験を通して、人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	目的や場面、状況などに応じて、外国語の知識を活用して情報や考えなどの確に理解したり、考察の核心を伝え合ったりできる力を身に付ける。					
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組む学びの自己調整をする力と、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする力を身に付ける。					
使用教科書	BIG DIPPER English Communication Ⅱ (数研出版)			使用副教材	単語帳DataBase3300(桐原書店) (昨年度から継続使用)		

	前 期		時間	後 期		時間
年間学習計画	Lesson 1 Why Don't You Come to School in Pajamas?			Lesson 6 Wakayama Masako: The World's Oldest Game App Developer		
	Lesson 2 Is Seeing Believing?		30	Lesson 7 Learnig from Nature パフォーマンステスト		30
		第1回 考査			第3回 考査	
	Lesson 3 Do You Get Enough Sleep?			Lesson 8 The Wisdom of Preserving Food		
	Lesson 4 Do You Want to Speak English like a Native Speaker?			Lesson 9 The Sharing Economy: Something for Everyone?		
	パフォーマンステスト					
	Lesson 5 Universal Design: Convenient for All		40	Lesson 10 Sand and Concrete: A Basis of Our Life		40
		第2回 考査		総まとめ パフォーマンステスト	学年末 考査	
	Lesson 6 Wakayama Masako: The World's Oldest Game App Developer パフォーマンステスト					
				合 計		140

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。	
修得要件	1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考査、パフォーマンステストを受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	小テスト、定期考査、パフォーマンステストによる。
	思考・判断・表現	定期考査、パフォーマンステストとアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・タブレットを毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べること。 ・積極的に英語を使って自分のことを表現したり、他者のことを理解したりしようとする。 ・教科書の予習・復習や定期的の実施する単語テストなどに向けて、学習習慣を確立すること。	

教科	外国語	科目名	論理・表現Ⅱ	年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	論理・表現Ⅰを履修していること。			
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☒ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語を用いて話すこと・書くことの言語活動を通じて、コミュニケーションを図る資質・能力を身に付ける。						
目指す資質・能力	知識・技能	外国語で実際に聞くこと、読むこと、書くこと、話すことの経験を通して、論理の構成や展開について理解を深め、実際のコミュニケーションの場面に対応できる技術を身につける。					
	思考・判断・表現	場面や目的、状況に応じて、論理の構成や展開についての知識を活用して、外国語で譲歩や考えを的確に理解したり表現したり伝えあったりする力を身につける。					
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組み学びの自己調整をする力と、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。					
使用教科書	BIG DIPPER English Logic and Expression II (数研出版)			使用副教材	BIG DIPPER English Logic and Expression I レッスンブック(数研出版)(昨年度から継続使用)		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	Lesson1			Lesson 16		
	Lesson2			比較(Ⅰ)		
	Lesson3		15	Lesson 17		10
	Lesson4			比較(Ⅱ)		
		第1回考査		Seminar Page		
	Lesson5			Lesson18		
	Lesson6		10	関係詞(Ⅰ)	第3回考査	
	Lesson7			Lesson19		
		第2回考査		関係詞(Ⅱ)(Ⅲ)		10
				Seminar Page		
				Lesson20		
			10	仮定法(Ⅰ)(Ⅱ)		
				Lesson21		15
				接続詞		
				Further Step		
					学年末考査	
				合 計		70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。	
修得要件	1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考査、パフォーマンステストを受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	小テスト、定期考査、パフォーマンステストによる。
	思考・判断・表現	定期考査、パフォーマンステストとアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	- 辞書ないしそれに類する機能を有する器具を毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べる。 - 積極的に英語を使った表現を模索し、また自他のことを理解したりしようとする。 - 教科書の予習・復習や定期的な実施する単語テストなどに向けて、学習習慣の確立および継続的な改善をすること。	

教科	外国語	科目名	英会話実践		年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件					
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☐ 就職準備				☒ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	外国語で実際に聞くこと、読むこと、書くこと、話すことの経験を通して、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	目的や場面、状況などに応じて、外国語の知識を活用して情報や考えなどの確に理解したり、考察の核心を伝え合ったりできる力を身に付ける。					
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組み学びの自己調整をする力と、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする力を身に付ける。					
使用教科書	高校生の「日々」を表現するスピーキング練習帳 ヒビスピ(アルク)			使用副教材			

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	Unit 1～7「…するのって～だ」～「…と同じ」 構文練習・言語活動 パフォーマンステスト①	15	Unit 23～30「…じゃなくて～」 ～「…したはずだ/したかもしれない」 構文練習・言語活動 パフォーマンステスト④	20
		第1回考査		学年末考査
	Unit 8～15「できるだけ…」 ～「…するよりは～したいよ」 構文練習・言語活動 パフォーマンステスト②	20		
		第2回考査		
	Unit 16～22「とても…だから、～だ」 ～「…と～の両方/どちらか/どちらもない」 構文練習・言語活動 パフォーマンステスト③	15		
		第3回考査		
			合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。		
修得要件	1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全てのパフォーマンステストを受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	定期考査、パフォーマンステストによる。	
	思考・判断・表現	定期考査、パフォーマンステストによる。	
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、及びアセスメント(振り返りシート)による。	
学習にあたっての注意とアドバイス	・辞書を毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べること。 ・積極的に英語を使って自分のことを表現したり、他者のことを理解したりしようとする。		

教科	外国語	科目名	グローバルスタディーズ		年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者で、2年次に「原価計算」を履修していることが望ましい。				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☐ 就職準備		☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員					

学習目標	海外の文化や歴史、慣習などに関する英文を読んで、日本文化との比較をし、その差異や情報・状況を自分の言葉で適切に表現したり、伝え合ったりすることを通して、異文化理解と外国語におけるコミュニケーション能力を身に付ける。						
目指す資質・能力	知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を深め、聞くこと、読むこと、書くこと、話すことを実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身につける。					
	思考・判断・表現	目的や場面、状況などに応じて、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、適切に伝え合ったりできるようにする。					
	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					
使用教科書	Watching World (2024～2025)(浜島書店)			使用副教材			

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	Unit 1 Food Culture in China			Unit 9 British Boarding Schools		
	Unit 2 Multietnic Singapore			Unit 10 Land of Fire and Ice		
	Unit 3 Uniue Australian English			Unit 11 Japanese Immigrants to Brazil		第3回考查
	Unit 4 The Ganges		第1回考查			
	Unit 5 Turkish Cuisine			Unit 12 Day of the Dead		
	Unit 6 Ramadan			Unit 13 The U.S.A. and its states		学年末考查
	Unit 7 Kenya, Leading Mobile Money Country		第2回考查			
	Unit 8 Onion Domesof Rassian Churches					
			35	合 計		35 70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。	
修得要件	1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考查を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考查、課題等による。
	思考・判断・表現	定期考查、課題、パフォーマンステストによる(スピーキング・ライティング)。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、課題の提出、授業への取り組み及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	- 辞書を毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べること。 - 積極的に英語を使って自分のことを表現したり、他者のことを理解したりしようとする。 - 教科書の予習・復習や定期考查に向けて、学習習慣を確立すること。	

教科	外国語	科目名	商業英語	年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☒ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	外国語でのコミュニケーションの見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりする資質・能力や外国語でコミュニケーションを図る態度を身につける。						
目指す資質・能力	知識・技能	外国語で実際に聞くこと、読むこと、書くこと、話すことの経験を通して、人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	外国語の知識を活用して情報や考えなどを的確に理解したり、場面や目的、状況に応じて適切に表現したりする力を身につける。					
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組み学びの自己調整をする力と、外国語でのコミュニケーションを通して他者と協働する態度を身につける。					
使用教科書	BIG DIPPER English Communication II (数研出版)			使用副教材			

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	Lesson 1 Why Don't You Come to School in Pajamas?		6	Lesson 6 Wakayama Masako: The World's Oldest Game App Developer		6
	Lesson 2 Is Seeing Believing?		6	Lesson 7 Learnig from Nature パフォーマンステスト		7
	Lesson 3 Do You Get Enough Sleep?		6		第3回考査	
	Lesson 4 Do You Want to Speak English like a Native Speaker パフォーマンステスト	第1回考査	7	Lesson 8 The Wisdom of Preserving Food		6
	Lesson 5 Universal Design: Convenient for All		6	Lesson 9 The Sharing Economy: Something for Everyone?		6
	Lesson 6 Wakayama Masako: The World's Oldest Game App Developer パフォーマンステスト		7	Lesson 10 Sand and Concrete: A Basis of Our Life 総まとめ パフォーマンステスト		7
		第2回考査		合 計		70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。	
修得要件	1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考査、パフォーマンステストを受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	小テスト、定期考査、パフォーマンステストによる。
	思考・判断・表現	定期考査、パフォーマンステストとアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・タブレットを毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べること。 ・積極的に英語を使って自分のことを表現したり、他者のことを理解したりしようとする。 ・教科書の予習・復習や定期的な実施する単語テストなどに向けて、学習習慣を確立すること。	

教科	家庭	科目名	フードデザイン		年次	2 年	単位数	4
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件					
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☒ 就職準備				☒ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。					
	思考・判断・表現	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
使用教科書	フードデザイン 新訂版(実教出版)			使用副教材	ニュービジュアル家庭科資料＋成分表(実教出版)		

年間学習計画	前	期	時間	後	期	時間
	オリエンテーション		1	食育		25
	調理の基本 概量・切り方・用具		11	食育の意義と推進活動 調理実習		
	食品の特徴・表示・安全 食品の特徴と性質 調理実習		25	食生活と健康 食事の意義と役割 食をとりまく現状		10
	料理様式とテーブルコーディネート 料理様式と献立 実習		20	栄養素の働きと食事計画 からだのしくみと食べ物 炭水化物 脂質 たんぱく質 無機質 ビタミン 調理実習		30
	献立作成 行事食・郷土食		13	1年間のまとめ		5
				合計		140

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 考査と提出物の合計点が、年間で全体の平均の2分の1以下にならないこと。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出・実習態度による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出・実習態度およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよび生活への関心、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	欠席をしない。 自分で課題意識を持ち、毎時間の授業に集中して取り組もう。 どんな生活を作りたいか想像しながら取り組もう。 提出物は期限を守り、必ず提出する。 授業内容の定着のための努力をする。 (施設設備の都合上、実習の実施時期が変更になる可能性もある)	

教科	情報	科目名	情報Ⅰ		年次	2 年	単位数	2
履修区分	☒ 必修 ・ ☐ 選択		選択条件	全員				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備				☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			
学習目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的・積極的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。							
目指す資質・能力	知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解する力。						
	思考・判断・表現	様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力。						
	主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようと努力する姿勢。						
使用教科書	高等学校 情報Ⅰ (数研出版)			使用副教材	高等学校 情報Ⅰ サポートノート(数研出版)			

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	1. コンピュータとプログラミング コンピュータのしくみ プログラミング① プログラミング② モデル化とシミュレーション	20 20	2. コミュニケーションと情報デザイン 情報のデジタル表現 コミュニケーション手段の発展と特徴 情報デザイン プレゼンテーション 3. 情報通信ネットワークとデータ活用 ネットワークのしくみ データベース データの分析 4. 情報社会の問題解決 情報とメディア 情報社会における法とセキュリティ 情報技術が社会に及ぼす影響	30
	第2回考查		学年末考查	
	第3回考查			
	合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考查を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考查・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考查・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業・課題への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・情報機器(ソフトウェアも含む)の取り扱いに慣れよう。 ・毎時間「これが分かった」を重ねよう。 ・グループワークではメンバーと協力し、積極的に取り組もう。 ・課題は必ず期限内に提出しよう。	

教科	工業	科目名	工業技術基礎	年次	2 年	単位数	4
履修区分	☐ 必修修 ・ ☒ 選択		選択条件	ものづくり系列選択者で、継続して系列選択をする者			
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☒ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☒ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え、発展を担う職業人として必要な資質と能力を育成することを目指す。						
目指す資質・能力	知識・技術	工業に関する実験・実習によって体験させ、基礎的な課題を実践できる能力。					
	思考・判断・表現	工業業技術に関する課題を見出し、科学的な根拠に基づき、唯一解がなくても最適解を判断する能力。					
	主体的に学習に取り組む態度	工業技術に関する広い視野を持ち、工業の発展に主体的かつ協働的に学び、学んだことが未来につながることを想像する能力。					
使用教科書	機械実習1・2、工業技術基礎			使用副教材	配付テキスト		

前 期		時間	後 期		時間
年間学習計画	オリエンテーション	3			
	基礎実習		協働ロボット実習		12
	電気編 (オームの法則など)	9			
	機械編 (機械検査、図面の読み取り)	12	マイコン制御		
	情報編 (プログラミング基礎)	3	実習Ⅰ		12
			実習Ⅱ		12
	手仕上げ				
	荒加工	9	切削加工		
	仕上げ加工	9	旋盤Ⅰ		12
			旋盤Ⅱ		12
	テスト制作	10			
電気工事士	10	レーザー加工		15	
			合 計	140	

履修要件	1. 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が年間授業数の1/5以内であること。	
修得要件	1. 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施した全ての実習のレポートを期限内に提出すること。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技術	実習後のレポート提出時の口頭試問による
	思考・判断・表現	作品製作・レポート提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・積極的に授業へ取り組むことが重要です。 ・全ての実習に出席し、レポートが期限までに提出されること。	

教科	工業	科目名	電気回路	年次	2 年	単位数	4
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	ものづくり系列選択者			
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☒ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☒ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、電気現象を量的に取り扱うことに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
目指す資質・能力	知識・技術	電気回路について電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける力。	
	思考・判断・表現	電気回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力。	
	主体的に学習に取り組む態度	電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む力。	
使用教科書	精選電気回路(実教出版)	使用副教材	精選電気回路(演習ノート)、自作プリント

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	第1章 電気回路の要素			第4章 電流と磁気		
	1節 電気回路の電流と電圧		4	1節 磁石とクーロンの法則		6
	演習		3	演習		4
	2節 電気回路を構成する素子		6	2節電流による磁界		4
	演習		5	演習		3
				3節 磁界中の電流に働く力		4
				演習		2
	第2章 直流回路			4節 電磁誘導		6
	1節 直流回路の計算		12	5節 直流電動機と直流発電機	第3回考査	2
演習		6				
2節 消費電力と発生熱量	第1回考査	6	第5章 交流回路			
演習		4	1節 正弦波交流		4	
3節 電流の化学作用と電池		4	2節 複素数		4	
			演習		4	
第3章 静電気			3節 記号法による交流回路の計算		8	
1節 電荷とクーロンの法則		6	4節 共振回路		4	
演習		4	5節 交流回路の電力		4	
2節 コンデンサ		5	6節 三相交流		6	
演習	第2回考査	4	演習	学年末考査	6	
					140	

履修要件	1. 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が年間授業数の1/5以内であること。	
修得要件	1. 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考査を受検し、課題等の提出を期限内に行うこと。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技術	定期考査・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・毎時間の授業において、ノート・プリントをしっかりと取ること。 ・提出物や課題は必ず期日までに仕上げること。	

教科	工業	科目名	機械工作	年次	2 年	単位数	4
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	ものづくり系列選択者			
対象者	☐ 四大文系 ・ ☒ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☒ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☒ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	工業の見方・考え方を働かせ、機械工作に関する基礎的な知識と技術を理解し、ものづくりに応用できる力を身につける。 機械工作に関する課題を発見し、工業技術の進展に対応し解決する力を養う。						
目指す資質・能力	知識・技術	基本的な機械材料や加工方法の知識を学び、社会的背景や需要に合わせた新しい知識を取り入れる力。					
	思考・判断・表現	学習内容がどのように活用されているのか、自らの考えを探究し、その考えを伝える力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	機械工作の基礎を学び、学習したことが未来につながることを想像する力。					
使用教科書	前期：機械工作1(実教出版) 後期：機械工作2(実教出版)			使用副教材	・機械工作1・2演習ノート(実教出版) ・授業担当者が作成した資料		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	第1章 工業計測と測定用機器		10	第6章 切削加工		
	第2章 機械材料			切削加工の分類		4
	材料の機械的性質		6	主な工作機械と切削工具		4
	金属の結晶と加工性		5	切削工具と切削条件		4
	鉄鋼材料		5	切削理論		3
	非鉄金属材料		5	工作機械の構成と駆動装置		3
	非金属材料		5	第7章 砥粒加工	第3回考查	
	各種の材料	第1回考查		砥粒加工の分類		3
	第3章 鋳造		10	砥石車		3
	第4章 溶接		12	いろいろな研削		3
	第5章 塑性加工			遊離砥粒による加工		3
	塑性加工の分類		3	第8章 特殊加工と三次元造形技術		12
	素材の加工		3	第9章 表面処理		12
	プレス加工		3	第10章 生産計画・管理と生産効率化		12
	鍛造		3		学年末考查	
	その他の塑性加工		2			
	型を用いた成形法	第2回考查	2			
				合 計		140

履修要件	1. 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が年間授業数の1/5以内であること。	
修得要件	1. 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考查を受検し、課題等の提出を期限内に行うこと。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技術	定期考查・課題提出およびルーブリックによる。
	思考・判断・表現	定期考查・課題提出・アセスメント(振り返りシート)およびルーブリックによる。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・授業内容と関係深い事象を日常の中から探し出し、再確認をする。 ・日常生活で、使用される素材、工具等に興味をもつ。 ・授業を単体の科目でとらえるのではなく他教科や科目と関連付けて学習する態度をもつ。 (例：工業技術基礎・数学科目・国語科目など)	

教科	工業	科目名	実習	年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	ものづくり系列選択者で、継続して系列選択をする者			
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☒ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☒ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力と態度を育てる。						
目指す資質・能力	知識・技術	各分野に関する工業の技術を実際の作業に即して、総合的に理解し、関連する技術を身に付けようとする能力。					
	思考・判断・表現	工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき、唯一解がなくとも最適解を判断する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	工業技術に関する広い視野を持ち、工業の発展に主体的かつ協働的に学び、学んだことが未来につながることを想像する能力。					
使用教科書	機械実習1・2			使用副教材	配付テキスト		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	オリエンテーション		2			
	基礎実習			協働ロボット実習		6
	電気編	(オームの法則など)	5			
	機械編	(機械検査、図面の読み取り)	6	マイコン制御		
	情報編	(プログラミング基礎)	3	実習Ⅰ		6
				実習Ⅱ		6
	手仕上げ					
	荒加工		4	切削加工		
	仕上げ加工		4	旋盤Ⅰ		6
			旋盤Ⅱ		6	
	テスト制作		5			
			レーザー加工		6	
	電気工事士		5			
				合 計		70

履修要件	1. 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が年間授業数の1/5以内であること。	
修得要件	1. 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施した全ての実習のレポートを期限内に提出すること。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技術	実習後のレポート提出時の口頭試問による
	思考・判断・表現	作品製作・レポート提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・積極的に授業へ取り組むことが重要です。 ・全ての実習に出席し、レポートが期限までに提出されること。	

教科	商業	科目名	ビジネス基礎	年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者の必修科目です。			
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☒ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域産業をはじめビジネスや経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として基礎的な資質・能力を目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	ビジネスについて実務的に即して体系的・系統的に理解するとともに、人間と世界についての豊かな知識と技能を養う。					
	思考・判断・表現	知識を活用して思考する力をつけ、ビジネスに関する課題を発見しつつ、モノやサービスの動きを理解する。					
	主体的に学習に取り組む態度	学習内容を社会の動きと自ら重ね合わせ、学びに真摯に取り組む力や将来ビジネスに携わる資質を養う。					
使用教科書	ビジネス基礎(実教出版)			使用副教材	ビジネス計算実務検定模擬問題集1級(実教出版)		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	第1章 商業の学習とビジネス いざ、ビジネスの世界へ 私たちの社会とビジネス		2	第4章 さまざまなビジネス ビジネスの種類 小売業 卸売業 物流業 金融業 情報通信業		8
	第2章 ビジネスとコミュニケーション コミュニケーション ビジネスマナー	第1回考査	8	第5章 企業活動の基礎 ビジネスと企業 マーケティングの重要性	第3回考査	6
	第7章 ビジネス計算 ビジネス計算の基礎 ビジネス計算の応用		20	資金調達 財務諸表の役割 企業活動と税 雇用		8
	第3章 経済と流通の基礎 経済の仕組みとビジネス 経済活動と流通	第2回考査	6	第8章 身近な地域のビジネス さまざまな地域の魅力と課題 地域ビジネスの動向	学年末考査	12
				合 計		70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびニュースへの関心、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・定期試験だけではなく、授業への取り組みや提出物についても評価の対象となるので、積極的に取り組むこと。 ・身だしなみを整え、授業に臨むこと。 ・全商ビジネス計算実務検定試験1級も受験します。知識の定着と検定試験の合格を目指そう。	

教科	商業	科目名	簿記	年次	2 年	単位数	4
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者は必履修科目です。			
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☒ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	商業の見方・考え方を働かせ簿記に関する知識と技術を習得し、その基本的な仕組みについて理解するとともに、適正な会計処理を行う能力と態度を育てる。						
目指す資質・能力	知識・技能	企業における会計処理を学び、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	会計処理の手法や会計制度および法の理解のうえで、会計情報を適切に整理・表示し、知識を活用して思考する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	学習内容を社会の動きと重ね合わせて学び、将来ビジネスに携わる資質を養う。					
使用教科書	新簿記(実教出版)			使用副教材	全商簿記3級 論点別NEWステップアップ問題集(TAC) 全商簿記実務検定 模擬問題集3級(実教出版) 日商簿記検定 模擬試験問題集(実教出版)		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間	
	第1編 簿記の基礎 1章 簿記の基礎 2章資産・負債・純資産と貸借対照表 3章収益・費用と損益計算書 4章取引と勘定 5章仕訳と転記 6章仕訳帳と総勘定元帳 7章試算表 8章精算表 9章決算	第2編取引の記帳 10章現金・預金などの取引 11章商品売買の取引 12章掛け取引 13章手形の取引 14章その他の債権・債務の取引 15章固定資産の取引 16章個人企業の資本の取引 17章販売費と一般管理費、税金の取引	30	第3編 決算(その1) 18章決算整理(その1) 19章8桁精算表 20章帳簿決算	第2回考查	35	
				第4編 会計帳簿と帳簿組織 21章会計帳簿 22章伝票の利用 23章会計ソフトウェアの活用	第3回考查		
				第5編 取引の記帳(その2) 24章特殊な手形の取引 25章有価証券の取引 26章本支店会計 27章最近の実務に広がる取引			
				第6編 決算(その2) 28章決算整理(その2) 発展編株式会社の取引 29章株式会社の取引と財務諸表	学年末考查		
				合 計			140

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考查を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考查・小テスト・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考查・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびニュースへの関心、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。 ・毎時「これが分かった」を重ねよう。 ・知識の定着と検定試験の合格を目指そう。	

教科	商業	科目名	原価計算	年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者の選択科目です。			
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☒ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	商業の見方・考え方を働かせ、製造業における原価計算及び簿記に関する基本的な知識と技術を習得し、原価について理解するとともに、そこから得られる会計情報を活用する能力を習得する。		
目指す資質・能力	知識・技能	製造業における経営活動や製造活動、販売活動を学び、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。	
	思考・判断・表現	製品製造のためにかかった計算の手法や会計制度および法の理解のうえで、会計情報を適切に整理・表示し、知識を活用して思考する力。	
	主体的に学習に取り組む態度	学習内容を社会の動きと重ね合わせて学び、将来ビジネスに携わる資質を養う。	
使用教科書	原価計算(実教出版)	使用副教材	最新段階式簿記検定問題集1級 原価計算

	前	期	時間	後	期	時間
年間学習計画	原価計算の基礎 原価と原価計算 原価計算のあらまし 工業簿記		10	製品の完成・販売と決算 製品の完成と販売 決算と本社・工場間の取引		20
	原価の費目別計算 材料費の計算と記帳 労務費の計算と記帳 経費の計算と記帳	第1回考查	8	標準原価計算の基礎 標準原価計算(その1) 標準原価計算(その2)	第3回考查	
	原価の部門別計算と製品別計算 個別原価計算 部門別個別原価計算 総合原価計算 工程別総合原価計算 総合原価計算における減損・仕損じなど		12	直接原価計算の基礎 直接原価計算(その1) 直接原価計算(その2)	学年末考查	20
		第2回考查				
				合	計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・小テスト・課題提出による
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り替えシート)による
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。 ・全商簿記検定1級も受験します。知識の定着と検定試験合格を目指そう。	

教科	商業	科目名	情報処理	年次	2 年	単位数	4
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者は必履修科目です。			
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☒ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得し、情報の意義や役割について理解するとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。						
目指す資質・能力	知識・技能	実務と関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つ情報かを想像しながら、収集・処理・分析・表現と活用に関する知識と技術を身に付け、情報を処理する力。					
	思考・判断・表現	学んだ知識や技術を活用し、情報を収集・処理・分析して課題を発見するとともに、科学的な根拠に基づいて工夫して最適な解を導き出し、よりよく解決する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	学習内容を社会の動きと自らを重ねて学ぼうとする力。情報の収集と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションなどに責任を持って取り組む態度。					
使用教科書	最新情報処理(実教出版)			使用副教材	PASSPORT2025ビジネス情報部門3級(とうほう) PASSPORT2025ビジネス情報部門2級(とうほう)		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	第3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計 2節 関数を利用した表の作成 3節 グラフの作成 4節 情報の整列、検索、抽出 5節 問題の発見と解決方法 第1章 情報の活用と情報モラル 1節 情報処理の重要性 2節 情報モラルと法規 3節 コミュニケーションと情報デザイン	80 20	第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 1節 コンピュータシステムの概要 2節 情報通信ネットワークのしくみと構成 3節 インターネットの活用 4節 情報セキュリティの確保 第5章 プレゼンテーション 1節 プレゼンテーションの技法 2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション	20 20
	合 計			140

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考査・ワークシート・課題およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業・実習への取り組み、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。 ・毎時「これが分かった」を重ねよう。 ・全商情報処理検定(9月・1月)を受験をします。知識の定着と検定試験の合格を目指そう。	

教科	商業	科目名	ビジネス・コミュニケーション		年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☒ 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者の選択科目です。				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備				☐ 文理 ・ ☒ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的学習活動を行うことを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質と態度を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解する力。それに関連する技術。					
	思考・判断・表現	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見する力。ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度・姿勢。					
使用教科書	ビジネスコミュニケーション(実教出版)			使用副教材	ビジネス・コミュニケーション 問題集(実教出版) ビジネス文書検定模擬試験問題集2級(実教出版)		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	第3編7章コミュニケーションとビジネススキル 1会議 2文書におけるコミュニケーション 第1回考查		20	第2編 1挨拶 2身だしなみ・表情・身のこなし 3言葉遣い 4名刺交換と紹介 5訪問・来客の応対 6電話の対応 7席次のマナー 第3回考查		16
	第4章 ビジネス文書の作成 1節 ビジネス文書と表現 2節 基本文書の作成 3節 応用文書の作成 ビジネス文書実務検定 第2回考查		18	第3編 ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション コミュニケーションの役割と思考方法 ビジネスにおけるコミュニケーション コミュニケーションとビジネススキル 学年末考查		16
				合 計		70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考查を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考查・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考查・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびニュースへの関心、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。 ・毎時「これが分かった」を重ねよう。 ・全商ビジネス文書検定試験2級も受験します。知識の定着と検定試験の合格を目指そう。	

教科	商業	科目名	課題研究	年次	2 年	単位数	2
履修区分	☐ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者は必履修科目です。			
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☒ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☐ 全員			

学習目標	商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的・創造的・主体的な学習態度を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	商業で学ぶ簿記・情報処理・マーケティングの知識を横断的・効果的に活用し、思考する力。					
	思考・判断・表現	地域および社会の課題に目を向け、それを解決する方策を考え、実行する力。課題解決についての考察の核心を伝える力。					
	主体的に学習に取り組む態度	物事を自らの課題と捉えて行動する力。地域の方々と接する際の挨拶・返事・会話等のコミュニケーションをとり、未来の地域社会を想像する力。					
使用教科書	なし			使用副教材	なし		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	■ 南木曾町・木曾を知る <これまでの学習例> ・ミツバつつじ祭におけるイベント運営補助 ・ミツバつつじ祭におけるアンケート調査 ・ミツバつつじ祭における「写真撮り隊」 ・茶摘みと茶の商品化 ・そばの栽培から販売までの一貫した取り組み（地域学習・播種・観察） ・ふるさとCM大賞作品制作および応募 ・なぎのこマルシェ出店（マーケティング調査） ・蘇峽祭出店 ・地域小学校へプログラミング授業	35	■ 販売実習におけるビジネスの実践 <これまでの学習例> ・そばの収穫・乾燥 ・そば打ち実習 ・ふれあい福祉まつり出店（マーケティング調査） ・南木曾町スローフードフェスタ出店 ・地域小学校へプログラミング授業 （他科目で学習する内容を活用する） ・マーケティング：顧客調査と動向分析 ・簿記：会計処理と報告書書類 ・原価計算：原価管理と販売計画 ・情報処理：データ集計と効果的な表現 ・ビジネス実務：接遇およびビジネス計算	35
	合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	他商業科目で学んだ事柄を結び付けて考えようとする姿勢、反省・感想等およびアセスメント(振り返りシート)による。	
	思考・判断・表現	他商業科目で学んだ事柄を結び付けて考えようとする姿勢、反省・感想等およびアセスメント(振り返りシート)による。	
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびイベント等での主体的取り組み、課題提出による。	
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。 ・学んだことやニュース等を総合的に活用することが、「働き」・「生きる」ことにつながります。この授業は、自分が実際に社会でいるつもりで取り組もう。		